

家族で英語を学ぼう!



子どもと一緒に英語で話す





## 子どもと一緒に英語で話す

幼い子どもたちは、通常、親から日本語の話し方を学びます。2歳になるまでは、お母さんの声と独特の話し方、つまり「幼児語」によって、子どもは言葉と話し方を学びます。

親の英語力が基礎的なものであっても、子どもの英語学習を十分にサポートすることは可能です。日本語を教えるときと同じように、「幼児語」のテクニックを利用すればよいのです。

自分の英語の発音を気にする親もいます。しかし子どもの能力は素晴らしいもので、環境に合わせて自分の英語を変化させることができるのです。大切なことは、「ぼくは英語がしゃべれる」「わたし英語が好き」と思う気持ちです。親のサポートがあれば、最初のレッスンのときからそんな気持ちを抱くことができます。



## 親のサポートが必要な理由

- 親は、自分の子どもだけに集中して一対一で過ごす時間を作れます。
- 生活の中で、自分と子どもに合う形で英語学習の時間を設けることができます。
- 子どもの欲求・関心・能力に合わせて、英語学習時間の長さを調節したり、練習の内容を選んだりすることができます。
- 子どもをよく理解しているため、子どもに合った英語の話し方を直感的に判断できます。
- 子どもの気分を察して、対応することができます。子どもには言葉を吸収しやすい日と、集中することができない日があります。
- 教室と違って一対一ですので、より楽しい学習時間にすることができます。
- 家庭に英語文化を取り入れることができます。そうすれば、英語文化だけでなく、自国の文化に対する理解も深まります。



## 「幼児語」とは

「幼児語」とは、幼い子どもたちの言葉に合わせた話し方であり、子どもと会話しながら、次の能力レベルまで導くような話し方です。女性は先天的に「幼児語」を話すことができます。絵本やゲームなど特別なトピックは別として、男性の中には「幼児語」が難しいと思う人もいます。しかし、子ども、特に男の子にとっては、男性のお手本が必要です。男性の使う言葉は女性とは違います。男性は「おしゃべり」をあまりせず、技巧的に言葉を使うことが多いようです。

柔らかくやさしい声音を使ってシンプルな話し方をすれば、親は知らず知らずのうちに子どもを導くことができます。次のような練習をしてみましょう。

- 今していることを声に出して解説すること。たとえば「Let's put it here (それをここに置いてみようね)」「There (ここだよ)」「Look, I've put it on the table (見てごらん。テーブルの上に置いたよ)」「Which one do you like (どっちが好きかな)?」(間をおいて)「Oh, I like this one (うん、私はこれが好きだな)」「The red one (赤いほうね)」。
- 大人同士の会話の中よりも頻繁に言葉を繰り返し使うこと。言葉を繰り返すことで、子どもは理解したことを自然に確認することができます。親にとっては退屈でしょうが、子どもにとってはそうではないのです。
- 子どもが言ったことに反応して、それを掘り下げる。たとえば、子ども「Yellow (黄色)」; 親「You like the yellow one (黄色いのが好きなのね)」「Here it is (ほら)」「Here's the yellow one (これが黄色いほうだよ)」「Let's see, yellow, red and here's the brown one (じゃあ、黄色、赤、それからこれが茶色だよ)」「I like the brown one, do you (私はこの茶色が好きだな。あなたは?)」(間をおく)。
- ゆっくりと話し、話し方の調子を変えずに新しい言葉をさりげなく強調すること。「Which rhyme shall we say (今日はどの詩にする?)」「You choose (あなたが選んでね)」(間をおいて子どもに選択させる)。





- 他の練習やゲームと同じく、英語学習の際に同じ語句を使うこと。子どもの理解力が向上するにつれ、こうした基本的なフレーズを増やします。たとえば、「Let's play Simon says (船長さんの命令"ゲーム"をしましょう。)」 「Stand there (そこに立って。)」 「In front of me (私の前に。)」 「That's right (それでいいよ。)」 「Are you ready (準備はいいかな?)」。
- 表情とジェスチャーを使って理解を助けること。
- 一対一のときは視線を合わせて確認し、また子どもが話すのをためらっているときは、勇気付けてあげること。
- 子どもが言われたことを考える必要がある場合は、子どもが返事をするまで間をおくこと。まだ話が十分にできないときは、長く間をとると、子どもはそれを面白がったり、言葉のゲームに興味を持ち続けたりすることがあります。

大げさな表現や「幼児語」を使うのは恥ずかしい時もあるでしょう。ただ、子どもは日本語でも「幼児語レッスン」を受けて慣れているので、大げさな表現や「幼児語」のほうが英語を理解しやすいのです。子どもが話し始めるようになると、親は新しい言葉や練習内容を教えるとき以外には、「幼児語」を使う必要性を感じなくなるでしょう。



## 英語を使う

親が簡単な英語を何度も繰り返して使うと、慣れた練習の際には、子どもは英語でものを考えるようになります。さらにゲームや「詩の時間」など、これから何が始まるのかを予測することができるようになります。

幼い子どもたちが英語でお話したいことは、次のようなものです。

- 自分自身のことや好きなものについて。たとえば、「I like; I don't like...yuk (～が好き、～はきらい。)」。
- 自分がしたことについて。たとえば、「I went to...(～に行ったよ。)」 「I saw...(～を見たよ。)」 「I ate...(～を食べたよ。)」。
- 自分や他人が感じたことについて。たとえば、「I am sad (悲しいなあ。)」 「She's cross (あの人怒ってる。)」

親が絵本を一緒に読んだり、絵や写真を使って本を作っただけのもよいでしょう。

母語(日本語)を学ぶと、幼い子どもたちは、少ない言葉を様々な状況にあてはめることができるようになります。たとえば、「All gone (なくなった。)」。同じように大人が英語の語句を使い分けると、子どもはすぐにその真似をします。

子どもが学校で使う英語を練習するときは、「What's your name (あなたの名前は何か?)」 「How old are you (何歳ですか?)」 「What's this (これは何ですか?)」 「That's a pencil (それは鉛筆です。)」などの語句を使いましょう。このとき、英語をしゃべるぬいぐるみを使って練習の雰囲気を盛り上げてもらってよいですね。親がぬいぐるみに質問をし、ぬいぐるみが英語で返事をするかのようにすると楽しめます。



少し話ができるようになってくると、子どもは英語の一文に日本語を混ぜるようになります。たとえば、「He's eating a スモモ (あの人はスモモを食べてるよ)」。子どもはまだスモモに対する英語を知らないからです。大人がその一文を英語だけを使って繰り返し返してあげれば、その子どもはその英単語を理解します。「He's eating a plum (あの人はスモモを食べてるよ)」。「A plum (スモモ)」。

## 翻訳するタイミング

幼い子どもたちの理解能力は素晴らしいものです。子どもは実際に口に出すことができるよりもたくさん英語を理解しています。日本語では、子どもは耳に入るいくつかの単語だけを理解し、あとは話者のボディ・ランゲージやその他の手がかりをもとに意味を解釈しています。「幼児語」を使ってやれば、子どもはこのようなスキルを使い、英語の意味を理解しようとします。

新たな考え方や新たな言葉を同時に教えるときは、一度簡単に訳して、小さな声で言ってあげる必要があります。その後すぐに英語で繰り返しましょう。次の学習時にはもう翻訳する必要はありません。しかし、毎回翻訳をしてしまうと、子どもは自分で英語を理解しようとしなくなり、訳してもらおうのを待つようになってしまいます。



## 英語学習

英語学習の時間は、状況に応じて数分から最大でも10分を取り、状況に応じて、1日に1,2回行うとよいでしょう。英語を使う機会が多ければ多いほど、吸収力も速くなります。

英語学習の際は、他のことと掛け持ちせず、子どもだけに集中しなければなりません。英語学習中に親がつきつきりていてくれるのが分かったら、子どもは英語が好きになっていきます。

幼い子どもたちは論理的にものを考えます。英語を話すためには理由が必要なのです。自分自身も親も母国語で話すことができるのですから。

日本語から英語に簡単に頭を切り替えられない子どももいます。したがって、雰囲気作りは重要です。たとえば、「In three minutes we are going to have our English time (3分後に、英語の時間にしますよ)」と尝试してみましょう。英語の時間のための雰囲気を作るときは、家の中で特別な場所に移動してもよいですね。たとえば、「Let's sit on the sofa. Now, let's talk in English (ソファに座りましょう。さあ、英語で話しましょうね)」。新しい練習をする前には、数を数えたり、好きな詩を読んだりして、英語のウォーミングアップをすれば、英語に切り替えやすくなるでしょう。







[www.britishcouncil.org/parents](http://www.britishcouncil.org/parents)

このブックレット・シリーズは親をサポートするためにブリティッシュ・カウンシルより委託製作されたものです。  
Opal Dunn 著 (作家・教育コンサルタント/英国)

© British Council 2008

ブリティッシュ・カウンシルは英国の公的な国際文化交流機関です。英国では公益団体 (非営利組織) として登録されています。  
公益団体番号: 209131 (イングランド、ウェールズ)、SC037733 (スコットランド)